

4. 南区主催事業

(1) 校区青少年育成団体委員研修会

校区において、青少年の健全育成・非行防止活動を実践されている校区青少年育成団体の委員を対象として、研修会を実施しました。本年度は、子どもの現状と子どもへの対応について学ぶことを目的として開催しました。

日時	平成30年7月12日（木） 19:00～21:00
会場	南区保健福祉センター 講堂
内容	講話 テーマ『今起きている子どもの現状と子どもたちとの向き合い方について』
講師	講師：上野 敬子 氏 福岡少年サポートセンター 少年育成指導官
参加者	校区青少年育成団体の委員 33名

◆講話 上野氏

少年サポートセンター少年育成指導官とは

福岡少年サポートセンターは警察の機関で、場所は中央区のえがお館の中にあります。少年育成指導官は子どもの立ち直り支援を目的に、被害者と加害者両方の支援、相談を行っています。

問題行動を起こしてしまう子どもたちについて

子どもたちは盗みや暴力など、怒りに任せ問題を起こすことがあります。しかし怒りとは第2次感情であり、第1次感情である不安やさみしさ、恐怖、脅威を抱え込んだ結果出てくるものです。問題行動を起こす子どもたちも、盗みや暴力をふるってはいけないことは分かっています。その行動はSOSを出しているという見方とその視点を持った対応が大切です。

例えば盗みはさみしさや愛情不足を埋めるための代替行為といわれています。子どもがスキンシップを嫌がったり、学校のことを聞いてもそっけない態度をとったりしても、心の中ではさみしい、自分を見てほしいと思っていることもあるので、「いってらっしゃい」の時に背中をポンとたたくなどのスキンシップをとって、さみしさを取ってあげることが必要です。



近年では家庭内暴力と性の問題が増えています。

家庭内暴力を行う子どもは自己肯定感の低い子が多い傾向があります。習い事や部活などやりたくないことをやらされ続け、「もっと頑張れ」と励まされても、子どもには「あなたはできてないよ」と聞こえます。そういったことから自己肯定感が下がってしまいます。問題行動を起こすほど追い詰められて精神的に不安になるのなら、時にはやめる勇気と方向転換の勇気も必要な場合もあります。

性非行に走る子どもは自尊心が低い子が多いです。家庭などで自分への愛情が感じられず、生まれてきたことに疑問を持っている子どもたちもいます。そういう子どもたちは「生」を「性」で確かめています。大人はそういう気持ちにさせてはいけません。

支援について

日ごろから「生まれてきてくれてありがとう」や「あなたが大事だよ」としっかり伝わる言葉で子どもたちに声をかけていくことが大切です。

また、子どもたちは話を最後まで聞いてほしい、励ましてほしい、認めてほしいと思っています。子どもと話すときは大人が2割で子どもに8割は話をさせる気持ちを持ちましょう。

親子でもすれ違いが生じることがあります。大人が理解して歩み寄っていくことが大切です。そういった経験が、子どもたちが困ったときにそれを解決していくことにつながっていきます。

◆参加者の感想

- ・問題行動の根本には何かしらの原因があり、それを気づいてあげられるかが、解決できるかに関わってくるのが分かりました。
- ・「大人が変われば子どもは変わる」子どもたちを大人が、地域がしっかりと見守っていく必要があると改めて感じました。
- ・自身を振り返るような内容の研修会でした。家庭に戻り子どもたちを抱きしめてあげたくなりました。
- ・最近の子どもたちの行動など、現場で起こっていることが聞いて良かったです。もっと多くの人たちに聞いてほしいです。
- ・学校関係の仕事をしていますが、親も子もサポートが必要な難しい家庭が多く途方に暮れることも多いです。たくさんの人にこういった子どもたちがいることを知ってもらい、みんなを支えていかなければいけませんね。

(2) 強調月間

本市では、7月を「福岡市青少年の非行・被害防止強調月間」、11月を「福岡市子ども・若者育成支援強調月間」と定め、国の運動と一体となって、より多くの市民の方が、青少年の非行防止、子ども・若者の育成支援に関心・理解を深めていただくよう、取り組みを推進しています。